

# 長 生

平成 26 年 7 月 号

## 目 次

会長の言葉	日本長生医学会会長 柴田政宏
宗 教 編	
法 話	得勝寺 本庄一治… 1
長生医学編	
めまい（眩暈）の症例について	千葉県 渡邊高延… 3
九星を五行で相性占い！	長生学園事務局 新井友子… 6
随 想 編	
義母のその後	京都府 松澤剛… 9
未来へ・・・	中央支部 支部長 山森誠…10
倦まず、撓まず	東京都 玉川佳代子…11
ホームページ作成により長生会の今後の展望について考える	神奈川県 永野正治…12
医 療 情 報	14
長生会便り	15

日 本 長 生 医 学 会

## 会長の言葉

総本山長生寺管長 柴田政宏  
日本長生医学会会長

今年度も、長生医学会の地方研究会が予定通り順調に開催されております。

それぞれの支部、連合会の役員の先生方の細やかな心配りに、感謝の念がたえません。研究発表される先生方の緊張、御苦勞がひしひしと伝わる中、私も貴重な御時間を頂戴しお話しをさせていただいております。これまで、西洋医学、又は、科学で証明されていることについて、お話しをさせて頂いておりましたが、長生上人の御遺志を伝承させていただくうちに、やはり、精神的、心に及ぶことがらについてお話ししていかねば成らないのではないかと思ひ、今年は初めて思念、プラーナなど目に見えない、実在は感じていても客観的に証明しにくいことがらについて、お話しをさせていただくことにしました。

長生医学は西洋医学と違い、信仰に基づいた信念による治療法で、肉体に起こる病気の根底にある精神的な痛みも併せて治療していくことを目標としています。

私共長生医学に携わる者は、「治療させていただき楽になりますように、治りますように」という信念（正思念）を強く持ち、この強い気持ちがプラーナとなり治療するからこそ、患者さんの痛んでいる部位を察知し、治して行けるのです。

長生上人は「悪い所に手が行けばそこで止まる、治れば手が離れる」と教えていらっしゃいます。私共は自らの手、五感を使い察知能力を最大限に使い、治療に当たらなければならないと思ひます。

高齢化が進んでいる現在、治療に用いる力は繊細な力加減がさらに求められています。治療に当たる際には、事故につながらないよう道具の使用に頼らずプラーナをよりどころとした御仏に守られている自らの身体による治療を心掛けて日々の治療に当たって頂きたいと長生医学会員の皆様に御願申しあげます。

合掌